

調布基地跡地留保地自然環境調査
報告書
(概要版)

令和 7 年 1 2 月

調布市

目 次

1. 調査概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査対象区域	1
(3) 調査内容	3
2. 調査スケジュール	4
3. 調査詳細	6
(1) 現地調査	6
4. 調査結果	14
(1) 哺乳類	14
(2) 鳥類	15
(3) 爬虫類	17
(4) 昆虫類・クモ類	17
(5) 植物相	18
(6) 植生	20
(7) 大径木	25
(8) 景観	26
5. 環境保全措置の検討	33

1. 調査概要

(1) 目的

「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、調査対象区域の自然環境調査を行った。

(2) 調査対象区域

調査対象区域は、図 1 に示す西町公園を除く東京都調布市西町 290 番地 3 ほか(約 6ha)とした。

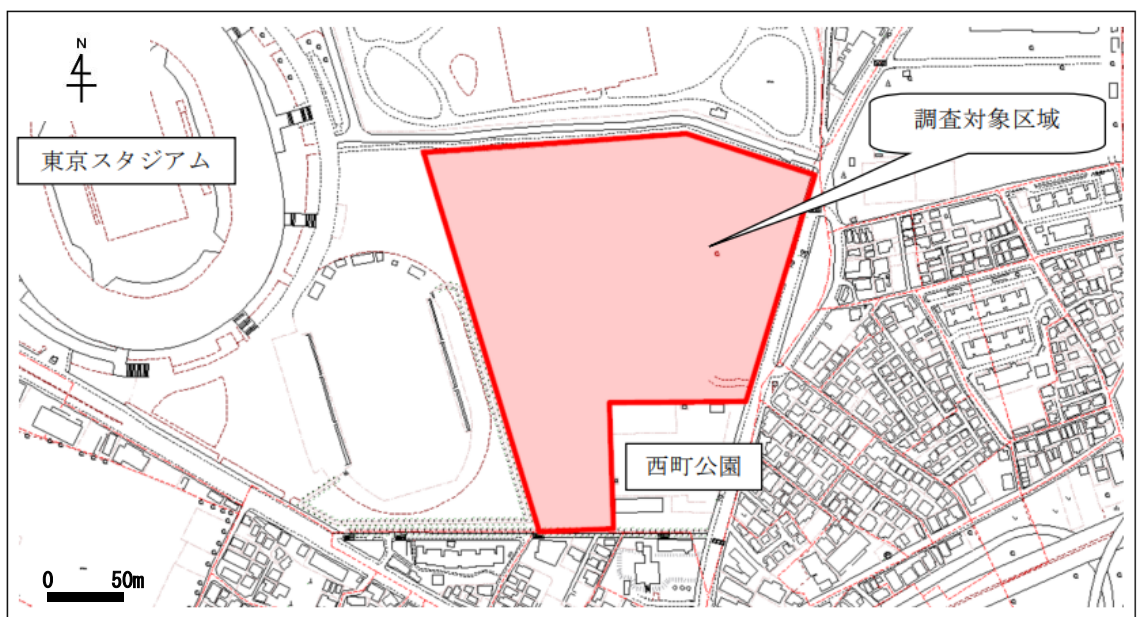


図1 調査対象区域

(8) 調査内容

調査の内容を以下の一覧表に示す。

表1 業務内容一覧

項目			数量	
計画準備			1 式	
調査計画書作成			1 式	
関係機関協議			1 式	
現地調査	調 査 年 度		R6	R7
	哺乳類	フィールドサイン	－	1 回（春季）
		トラップ・ 自動撮影カメラ	－	1 回（春季）
	鳥類	ラインセンサス 任意調査	1 回（冬季）	2 回（春季・ 夏季（6 月））
		猛禽類定点調査	－	1 回（春季）
		猛禽類営巣調査	1 回（冬季）	－
	爬虫類	任意調査	1 回（夏季）	1 回（春季）
	昆虫類・クモ類	任意調査	2 回（夏季・秋季）	1 回（春季）
		ベイトトラップ・ ライトトラップ	1 回（夏季）	－
	植物相	任意調査	2 回（夏季・秋季）	1 回（春季）
	植生	植生図作成	2 回（夏季・秋季）	－
		群落組成	2 回（夏季・秋季）	1 回（春季）
	大系木調査	大系木調査	1 回（秋季）	－
	景観	景観	2 回（夏季・秋季）	1 回（春季）

2. 調査スケジュール

調査スケジュールを表2（1）～（2）に示す。

表2（1） 実施スケジュール（令和6年度）

種 別	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 計画準備	■									
2. 調査計画書作成	■									
3. 関係機関協議	■									
4. 現地調査										
ア-1 鳥類 ラインセンサス・任意調査								■	■	
ア-2 鳥類 猛禽類営巣木調査								■	■	
イ 爬虫類 任意調査		■	■							
ウ-1 昆虫類・クモ類 任意調査		■	■		■					
ウ-2 昆虫類・クモ類 バイトトラップ・ ライットトラップ		■	■							
エ 植物相 任意調査		■	■		■	■				
オ-1 植生 植生図作成		■	■		■	■				
オ-2 植生 群落組成		■	■		■	■				
カ 大径木調査 大径木調査					■	■				
キ 景観 景観		■	■		■	■				
5. 調査結果とりまとめ		■	■	■	■	■	■	■	■	■
6. 報告書作成		■	■	■	■	■	■	■	■	■
7. 打ち合わせ等	■						■	■		■

注：予定は青、実施は赤で着色する。

表2 (2) 実施スケジュール (令和7年度)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月
1. 計画準備					
2. 調査計画書作成					
3. 関係機関協議					
4. 現地調査					
ア-1 哺乳類 フィールドサイン					
ア-2 哺乳類 トラップ・自動撮影カメラ					
イ-1 鳥類 ラインセンサス・任意調査					
イ-2 鳥類 猛禽類定点調査					
ウ 爬虫類 任意調査					
エ-1 昆虫類・クモ類 任意調査					
オ 植物相 任意調査					
カ 植生 群落組成					
キ 景観 景観					
5. 調査結果とりまとめ					
6. 環境保全措置の検討					
7. 自然環境保全計画書の作成					
8. 報告書作成					
9. 協議打合せ					

注：予定は青、実施は赤で着色する。

3. 調査詳細

(1) 現地調査

(ア) 哺乳類（令和7年度実施）

①フィールドサイン

調査範囲内を踏査し、目撃、足跡、糞、球巣等のフィールドサインを確認し、生息種のリストを作成するとともに、確認地点を図面上に記録した。また、「環境省レッドリスト」「東京都の保護上重要な野生生物」「種の保存法」に掲載されている種が確認された場合には、個体数や生息状況等を記録することとした。

なお、レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、写真を撮影し、確認地点、個体数を記録することとした。

②トラップ

主にネズミ類などの小型哺乳類を対象にシャーマントラップ(生け捕りワナ)を仕掛け、捕獲した個体の体重や後足長などを測定した。トラップの設置個所は2箇所とし、1箇所当り10個、計20個のトラップを設置する。なお設置個所は、原則として平成24年度調査を基本とし、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

トラップは、夕刻設置し、翌朝回収した。

捕獲した個体は体重や後ろ足の長さなどを計測した後、速やかに捕獲地点に逃がした。

③自動撮影カメラ

樹林地内や林縁草地などの獣道等に自動撮影（赤外線）カメラを設置し、一晩仕掛けて調査範囲を利用している哺乳類を撮影した。カメラの設置箇所は2箇所とし、1箇所当たり1台、計2台のカメラを設置した。なお設置箇所は、原則として平成24年度調査を基本とし、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

カメラは、夕刻設置し、翌朝回収した。

表3 哺乳類の調査方法

調査イメージ	具体的手法
	【フィールドサイン調査】 生息及び出没の予想される場所を任意に踏査し、足跡や糞、食痕、巣、爪痕、抜毛、掘り返し等のフィールドサインを観察した。
	【トラップ調査】 トラップとしてシャーマン式アライブトラップを使用した。餌としてピーナッツ、ソーセージ、サツマイモ等を使用し、設置日の翌日に捕獲状況の確認を行った。設置場所は、草むら、低木のやぶ、倒木の下等ネズミ類等の地上性小型哺乳類が行動するような場所を選定した。
	【無人撮影カメラ】 夜行性の哺乳類の確認を目的として、無人撮影カメラを設置した。無人撮影カメラは、哺乳類が頻繁に往来しているような「けもの道」あるいは小径等に設置し、カメラの視野内にさつまあげや魚肉ソーセージ等の餌を置いた。

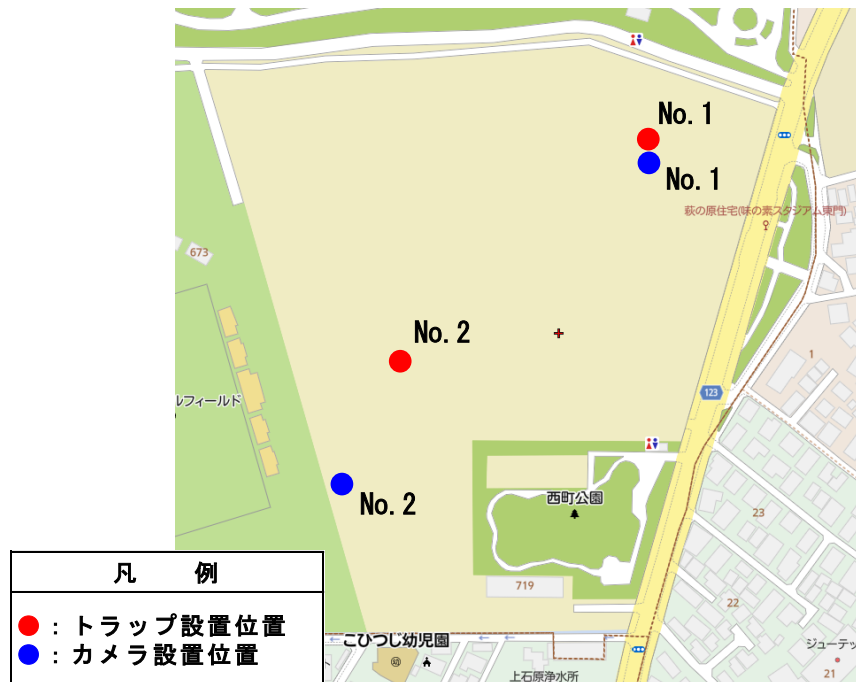


図2 哺乳類トラップ・カメラ設置地点

(イ) 鳥類

①ラインセンサス・任意調査（令和6・7年度実施）

ラインセンサス法は、対象区域内に調査ルートを1本設定し、ルート上を時速1.5～2km程度の速度で歩きながら出現した鳥類を確認・記録した。調査ルートは、原則として平成24年度調査を基本とし、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

任意調査では、対象区域内を任意に歩きながら、目視あるいは鳴き声により確認された鳥類を記録した。

ラインセンサス法は早朝実施し、ラインセンサス調査終了後に任意調査を実施した。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、可能な限り写真を撮影することとしたと同時に、確認地点、個体数、生息状況などを記録した。



図2 鳥類ラインセンサスルート

②猛禽類定点調査（令和7年度実施）

見通しの良い調査地点に調査員を配置し、双眼鏡等により猛禽類を確認した。確認した猛禽類の飛翔経路等を地図上に記録し、種、齢（成鳥・若鳥・幼鳥）、性別、行動、個体識別等の情報を記録した。可能な限り写真撮影を行い、個体識別情報を収集した。



図3 猛禽類定点調査地点

③猛禽類営巣木調査（令和 6 年度実施）

対象区域内を任意に踏査し、目視にて猛禽類の営巣木の確認を行った。

調査は、落葉樹が落葉して古巣の確認がしやすくなる渡去期後（冬季）に実施した。

（ウ）爬虫類（令和 6・7 年度実施）

対象区域内を任意に踏査し、生体の目視及び抜け殻等のフィールドサインの確認を行った。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、可能な限り写真を撮影することとし、確認地点、個体数、生息状況などを記録した。

（エ）昆虫類・クモ類

①任意調査（令和 6・7 年度実施）

任意調査では、対象区域内を踏査しながら目視確認（鳴声による確認を含む）された昆虫類を記録した。加えて、捕虫網で草を払うスウィーピングや下に網を受けて枝をたたいて虫を落として捕まえるビーティングなども適宜実施した。調査において確認された昆虫類・クモ類のうち、その場で種名が判明しなかったものについては持ち帰り、然るべき資料を基に種名の同定を行った。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、可能な限り写真を撮影することとし、確認地点、個体数、生息状況などを記録した。

②バイトトラップ・ライトトラップ（令和 6 年度実施）

A. バイトトラップ

バイトトラップは、餌（ドッグフード等）を入れたコップ（高さ 9cm 内径 6.5cm 程度のポリエチレン製のコップ）を縁が地面と同じ高さになるように地中に埋めて、餌に誘引された地上徘徊性の昆虫類を落として捕獲した。トラップの設置箇所は 2 箇所とし、1 箇所当り 10 個、計 20 個のトラップを設置した。なお設置箇所は、原則として平成 24 年度調査を基本とし、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

バイトトラップは、夕刻設置し、翌朝回収した。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、写真を撮影することとし、確認地点、個体数を記録した。

B. ライトトラップ

ライトトラップは、調査範囲外の広域から昆虫類を誘引することを避けるため、スクリーン法は用いず、ボックスタイプの手法（BOX 法）を用いた、

光源の下に大型ロート部及び昆虫収納ボックスからなる捕虫器を林内に設置し、夜間に光に誘引された昆虫類を落下させ捕獲した。

トラップの設置箇所は2箇所とし、1箇所当り1基、計2基のトラップを設置した。なお設置箇所は、原則として平成24年度調査を基本とし、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

ライトトラップは、夕刻設置し、翌朝回収した。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、写真を撮影し、確認地点、個体数を記録した。



ベイトトラップ法

ライトトラップ法（ボックス法）

昆虫類トラップ法の設置状況



図4 昆虫類・クモ類トラップ設置地点

(オ) 植物相（令和 6・7 年度実施）

植物相調査では、対象区域内を踏査しながら目視確認した植物種のリストを作成した。踏査に置いて確認された植物種のうち、その場で種名が判明しなかったものについては持ち帰り、然るべき資料を基に種名の同定を行うものとした。

レッドリスト掲載種などの重要種が確認された場合は、写真を撮影し、確認地点、個体数、生育状況などを記録した。

(カ) 植生（令和 6・7 年度実施）

①植生図作成

植生図作成に当たっては、過年度の調査による植生図及び最新の航空写真の判読により、植生基図を作成した後、対象区域内を踏査しながら相観による植生図の更新・作成を行った。

②群落組成

群落組成調査は、ブラウン-ブランケの植物社会学的手法により、群落区分を行った。相関植生図で区分された植生区分を代表する地点に調査区（コドラート）を設定し、海藻区分ごとの植被率（植物の被覆率）や種別被度、群度を記録した（図 4 群落構造及び被度・群度模式図参照）。調査箇所数は 6 地点とし、原則として平成 24 年度調査を基本としながら、相観植生図の凡例を基準に選定し、現地踏査実施後に監督官と協議の上決定した。

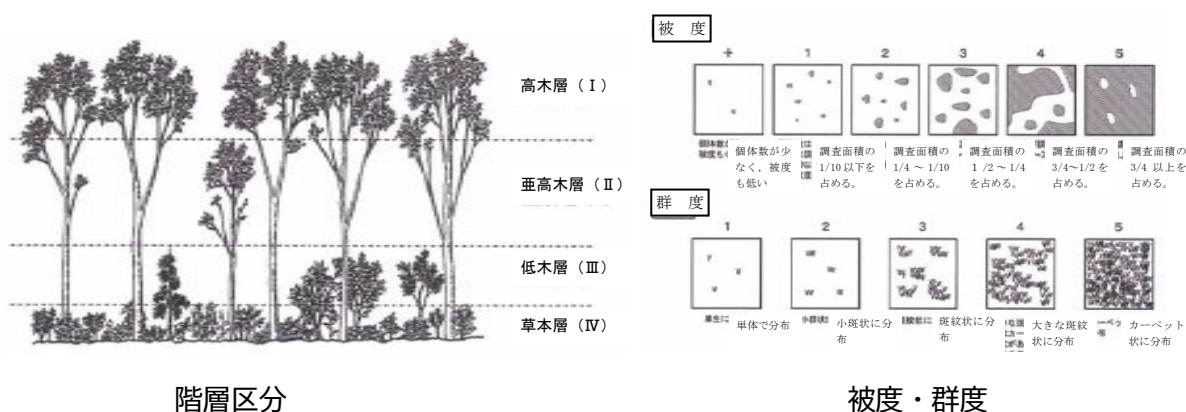


図5 群落構造及び被度・群度模式図

(キ) 大径木調査（令和 6 年度実施）

大径木調査では、対象区域内を踏査しながら目視確認した樹木の内、末口直径 30cm 以上の個体について、樹種、生育位置、樹高、末口直径（胸高直径）、株数等を記録した。

(ク) 景観（令和 6・7 年度実施）

景観調査では、事業実施前後の変化を視覚的に把握するため、対象区域内に撮影地点を設定し、同一の画角で写真を撮影した。

4. 調査結果

(1) 哺乳類

哺乳類調査は、以下の日程で実施した。

フィールドサイン調査：春季 令和7年5月21日（水）

トラップ調査：春季 令和7年5月21日（水）～5月22日（木）

自動撮影カメラ：春季 令和7年5月29日（木）～5月30日（金）

哺乳類調査において、2目2科2種を確認した。

既存資料の記録を含めた哺乳類確認種一覧を表4に示す。

確認した哺乳類は、アズマモグラとアカネズミの2種であった。

アズマモグラはフィールドサイン調査において、樹林地林床の広い範囲で塚や坑道を確認した。

アカネズミはトラップ調査において、北側樹林地のNo. 1に仕掛けたシャーマントラップで1個体を捕獲確認した。

なお、自動撮影カメラでは、哺乳類は確認できなかった。

また、哺乳類の重要種並びに特定外来生物は確認されなかった。

対象地域内は周囲をフェンスで囲われていることに加え、地域内に水域がないことから、移動性が大きく、水場を必要とする中～大型哺乳類の生息環境としては不適であると推察された。

表4 哺乳類確認種一覧

番号	目名	科名	種名	既存資料（H25）		調査全体	春季調査	重要種選定基準		特定外来生物
				計画地内	計画地外			環境省RL	東京都RL	
1	モグラ目	モグラ科	アズマモグラ			●	●			
-		-	モグラ目の一種	●	●					
2	ウサギ目	-	ウサギ目の一種		●					
3	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ			●	●			
-		-	ネズミ目の一種	●						
4	ネコ目	イヌ科	タヌキ	●						
5		ジャコウネコ科	ハクビシン	●						
合計	4目	5科	5種	4種	2種	2種	2種	0種	0種	0種



シャーマントラップで捕獲したアカネズミ



アズマモグラの塚

(2) 鳥類

鳥類調査は、以下の日程で実施した。

ラインセンサス・任意調査	冬季：令和7年1月27日（月）
	春季：令和7年5月20日（火）
	夏季：令和7年6月19日（木）
猛禽類定点調査	春季：令和7年5月20日（火）
猛禽類営巣調査	冬季：令和7年1月27日（月）

① ラインセンサス・任意調査

ラインセンサス・任意調査において、8目23科35種の鳥類を確認した。

現地調査で確認した鳥類種別個体数を表5に示す。

対象地域は樹林地と、その周辺に形成された草地が主要な植生となっているが、確認した種のほとんどは樹林性、あるいは樹林から草地や都市部にかけて広く生息する複合環境性の種であり、純粋な草地性の種は確認できなかった。また、カルガモやコチドリといった水辺性の鳥類も確認されたが、対象地域内に水場はなく、上空通過あるいは、休息のため一時的に飛来したものと考えられた。

調査全体で最も多く確認されたのは、ムクドリの188個体で、全確認個体数の約36.6%を占めた。次いで、ヒヨドリの61個体（11.9%）、シジュウカラの51個体（9.9%）となった。

また、重要種としてヒメアマツバメ、コチドリ、オオタカ、モズ、オナガ、ベニマシコ、ホオジロ、カシラダカの8種、特定外来生物として、ガビチョウ1種を確認した。

確認された重要種は、いずれも調布市内において、一般的に見られる種であった。

表5 鳥類種別確認個体数

番号	目名	科名	種名	学名	調査全体	冬季調査		春季調査		夏季調査		重要種選定基準		特定外来生物	
						ラインセンサス	任意	ラインセンサス	任意	ラインセンサス	任意	環境省RL	東京都RL		
1	カモ目	カモ科	カルガモ	Anas zonorhyncha	4				4						
2	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	Apus nipalensis	2			1			1		NT		
3	ハト目	ハト科	キジバト	Streptopelia orientalis	11	6	1	1		1	2				
4			アオバト	Treron sieboldii	1				1						
5			カワラバト(ドバト)	Columba livia	6	3					3				
6	チドリ目	VU	コチドリ	Charadrius dubius	1				1				VU		
7	タカ目	タカ科	トビ	Milvus migrans	3		2				1				
8			オオタカ	Accipiter gentilis	1				1			NT	VU		
9	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	Dendrocopos kizuki	9	2	2	1		3	1				
10			アオゲラ	Picus awokera	3	1	1		1						
11	オウム目	インコ科	ワカゲホンセイインコ	Psittacula krameri manillensis	3				1		2				
12	スズメ目	モズ科	モズ	Lanius bucephalus	2	1	1						VU		
13	カラス科	オナガ	オナガ	Cyanopica cyanus	22	3	5	7		3	4		NT		
14			ハシブトガラス	Corvus macrohynchos	26	17	1		1	5	2				
15			ハシボソガラス	Corvus corone	13	7		2		4					
16			シジュウカラ科	ヤマガラ	Poecile varius	1	1								
17				シジュウカラ	Parus minor	51	16	5	9		14	7			
18			ヒヨドリ科	ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	61	46	2	6		5	2			
19			ツバメ科	ツバメ	Hirundo rustica	7			4		2	1			
20			ウグイス科	ウグイス	Cettia diphone	5		1	3		1				
21			エナガ科	エナガ	Aegithalos caudatus	11		10				1			
22			チメドリ科	ガビチョウ	Garrulus canorus	8	1		3		2	2			●
23			メジロ科	メジロ	Zosterops japonicus	22	11	3	2		4	2			
24			ムクドリ科	ムクドリ	Spodiopsar cinereus	188	22	103	22		15	26			
25			ツグミ科	ツグミ	Turdus naumanni	11	9	2							
26				シロハラ	Turdus pallidus	4	2	2							
27	ヒタキ科	ジョウビタキ	Phoenicurus aureoreus	5	3	2									
28	スズメ科	スズメ	Passer montanus	1				1							
29	セキレイ科	ハクセキレイ	Motacilla alba	4	2						2				
30	アトリ科		カワラヒワ	Chloris sinica	2	1	1								
31			ベニマシコ	Uragus sibiricus	1		1						NT		
32			シメ	Coccothraustes coccothraustes	3	2	1								
33			ホオジロ科	ホオジロ	Emberiza cioides	9		5	2	1	1			NT	
34				カシラダカ	Emberiza rustica	1		1						VU	
35			アオジ	Emberiza spodocephala	12	3	9								
種数合計		8目	23科	35種	35種	21種	22種	13種	9種	13種	16種	1種	8種	1種	
個体数合計					514	159	161	63	12	60	59				

② 猛禽類定点調査

猛禽類定点調査において、確認した猛禽類は、トビ、サシバ、ツミ、オオタカの4種であった。

猛禽類確認種一覧を表6、猛禽類確認状況を表7に示す。

確認した猛禽類は、いずれも飛翔あるいは休息していたものであり、採餌並びに繁殖に係る行動は認められなかった。

表6 猛禽類確認種一覧

番号	目名	科名	種名	既存資料 (H25)		調査全体	猛禽類調査		重要種選定基準		特定外来生物
				計画地内	計画地外		定点1	定点2	環境省RL	東京都RL	
1	タカ目	タカ科	トビ		●	●	●	●			
2			サシバ			●	●		VU	CR	
3			ツミ			●	●	●		NT	
4			オオタカ	●	●	●	●		NT	VU	
合計	1目	1科	4種	1種	2種	4種	4種	2種	2種	3種	1種

表7 猛禽類確認状況

番号	対象種	性・齢	確認時間	観察定点	確認状況
1	サシバ	雄・成鳥	7:27~7:38	1	定点1南西から北東に旋回しながら移動し、飛去。
2	トビ	不明・不明	7:36~7:37	1	定点1南西より北上し、飛去。
3	オオタカ	不明・若鳥	9:21	1	定点1西より東へ低空で移動し、林内に飛去。
4	ツミ	雄・成鳥	9:21	1	定点1南西から北北西に飛去。
5	ツミ	雌・成鳥	9:37	1	定点1南から北東に飛去。
6	ツミ	不明・成鳥	6:37	2	公園側から飛翔。そのまま北上し、飛去。
7	トビ	不明・不明	7:58~8:00	2	公園北西、低空でハシブトガラスにモビングされた後、高度を上げて南下。
8	オオタカ	不明・若鳥	9:35	2	公園北側樹林内のカラスの古巣に30秒ほどパーチした後、公園西側樹林沿いに旋回しながら飛去。

③猛禽類営巣木調査

猛禽類営巣木調査において、猛禽類の営巣は確認されなかった。

なお、その他の鳥類の営巣については、カラス類の巣を2ヶ所で確認した。

(3) 爬虫類

爬虫類調査は、以下の日程で実施した。

夏季：令和6年7月25日（木）

春季：令和7年5月21日（水）

爬虫類調査において、ニホンカナヘビ1種を確認した。

既存資料の記録を含めた爬虫類確認種一覧を表8に示す。

対象地域は樹林地と、その周辺に形成された草地が主要な植生となっているが、今回確認したニホンカナヘビは、主として日当たりのよい草地を好んで生息する種であり、確認場所も林縁の草地が多かった。

表8 爬虫類確認種一覧

番号	目名	科名	種名	既存資料（H25）		調査全体	夏季調査	春季調査	重要種選定基準		特定外来生物
				計画地内	計画地外				環境省RL	東京都RL	
1	有鱗目	スギナ科	ヒガシニホントカゲ	●						絶滅危惧II類 (VU)	
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	●		●	●	●		絶滅危惧II類 (VU)	
3		ヤモリ科	ニホンヤモリ		●					留意種	
4		ナミヘビ科	シマヘビ	●						絶滅危惧II類 (VU)	
合計	1目	4科	4種	3種	1種	1種	1種	1種	0種	4種	0種

(4) 昆虫類・クモ類

昆虫類・クモ類調査は、以下の日程で実施した。

任意調査 夏季：令和6年7月29日（月）～7月30日（火）

秋季：令和6年10月22日（火）

春季：令和7年5月21日（水）

バイトトラップ・ライトトラップ

夏季：令和6年7月29日（月）～7月30日（火）

昆虫類・クモ類調査において、昆虫類283種、クモ類33種、計316種を確認した。

昆虫類・クモ類の重要種は確認されなかった。

特定外来生物として、アカボシゴマダラ名義タイプ亜種1種を確認した。本種の食草はエノキ類であり、対象地域の主要群落であるエノキ群落に依存していると考えられた。

また、確認種の内、水生昆虫由来のものは、移動性の大きなトンボ類を除くとほとんど確認できず、対象地域内に水域がない現況を把握していると推察された。

(5) 植物相

植物相調査は、以下の日程で実施した。

夏季：令和6年7月29日（月）～7月30日（火）

秋季：令和6年10月21日（月）～10月22日（火）

春季：令和7年4月21日（水）～4月22日（木）

植物相調査の結果、夏季203種、秋季196種、春季213種、調査全体で44目85科298種の植物を確認した。

植物分類群別確認状況を表9、植物重要種一覧を表10に示す。

植物の重要種は、マツバラシ、ヤブサンザシ、ヤナギイノコヅチ、ノニガナの4種を確認した。

表9 植物分類群別確認状況

分類群		季節別確認種数			合計		
		夏季	秋季	春季	目数	科数	種数
シダ植物	小葉シダ類	0	0	0	0	0	0
	大葉シダ類	5	7	6	4	5	8
種子植物	裸子植物	2	2	1	2	2	2
	基部被子植物	1	1	1	1	1	1
	センリョウ目	0	0	0	0	0	0
	モクレン類	6	6	4	3	3	7
	単子葉類	40	37	41	7	11	64
	マツモ目	0	0	0	0	0	0
	真正双子葉類	149	143	160	27	63	216
合計		203種	196種	213種	44目	85科	298種

表10 植物重要種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況			選定基準	
				夏季	秋季	春季	1	2
1	マツバラシ目	マツバラシ科	マツバラシ		●	●	NT	DD
2	ユキノシタ目	スグリ科	ヤブサンザシ	●	●	●		EX
3	ナデシコ目	ヒユ科	ヤナギイノコヅチ	●	●			EN
4	キク目	キク科	ノニガナ			●		NT
	4目	4科	4種	2種		3種	1種	4種

【選定基準】

- 1:「環境省レッドリスト2020」(令和2年)に掲載されている種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
2:「東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版—」(東京都環境局自然環境部2023年)の「北多摩」に掲載されている種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足



マツバラン



ヤブサンザシ



ヤナギイノコヅチ



ノニガナ

写真1 確認した植物重要種

(6) 植生

植生調査は、以下の日程で実施した。

夏季：令和6年8月19日（月）

秋季：令和6年10月21日（月）～10月22日（火）

春季：令和7年4月21日（月）～4月22日（火）

植生調査において、群落組成調査を実施した位置を図7（1）～（2）に示す。



図7（1） 群落組成調査位置（夏季・秋季）



図 7 (2) 群落組成調査位置 (春季)

植生調査において、森林植5区分、草地植生16区分、その他5区分の計41区分の群落を区分した。

区分した群落一覧を表11、作成した現存植生図を図8（1）～(2)に示す。

対象地域における樹林地の大半はエノキ群落で構成され、次いでヌルデ-アカメガシワ群落が多くを占めた。また、中央部および南側の草地群落との境界部にはヤマグワ群落が形成されていた。

草地については、夏季にはオギ群落、ススキ群落、セイバンモロコシ群落からなる高茎単子葉植物群落と、メヒシバ-エノコログサ群落、コセンダングサ群落等の低茎草本群落が多く見られたが、秋季には、特に外周フェンス沿いを中心に草刈りが行われており、草刈り草地へと変化していた。また、中央部の人工裸地の縁辺部の一部は、秋季にメヒシバ-エノコログサ群落へと変化していたものの、全体としてみると、群落組成に大きな季節変化は認められなかった。春季には、ネズミムギ群落等の草本群落が新たに区分されたが、全体としては規模が小さく、季節的なものであった。

表 11 群落区分一覧

No.	基本分類	群落区分
1	森林植生	エノキ群落
2		ヌルデ-アカメガシワ群落
3		ヤマグワ群落
4		ニワウルシ群落
21		ヒメコウゾ群落
5	草地植生	クズ群落
6		オギ群落
7		ススキ群落
8		セイバンモロコシ群落
9		セイタカアワダチソウ群落
10		ヨモギ-メドハギ群落
11		アキノノゲシ群落
12		コセンダングサ群落
13		マルバヤハズソウ群落
14		メヒシバ-エノコログサ群落
15		カナムグラ群落
22		ナヨクサフジーヤハズエンドウ群落
23		アメリカフウロ群落
24		アカオニタビラコ群落
25		セリバヒエンソウ群落
26		ネズミムギ群落
16	その他	植栽樹林群
17		草刈り草地
18		シバ植栽地
19		人工裸地
20		道路

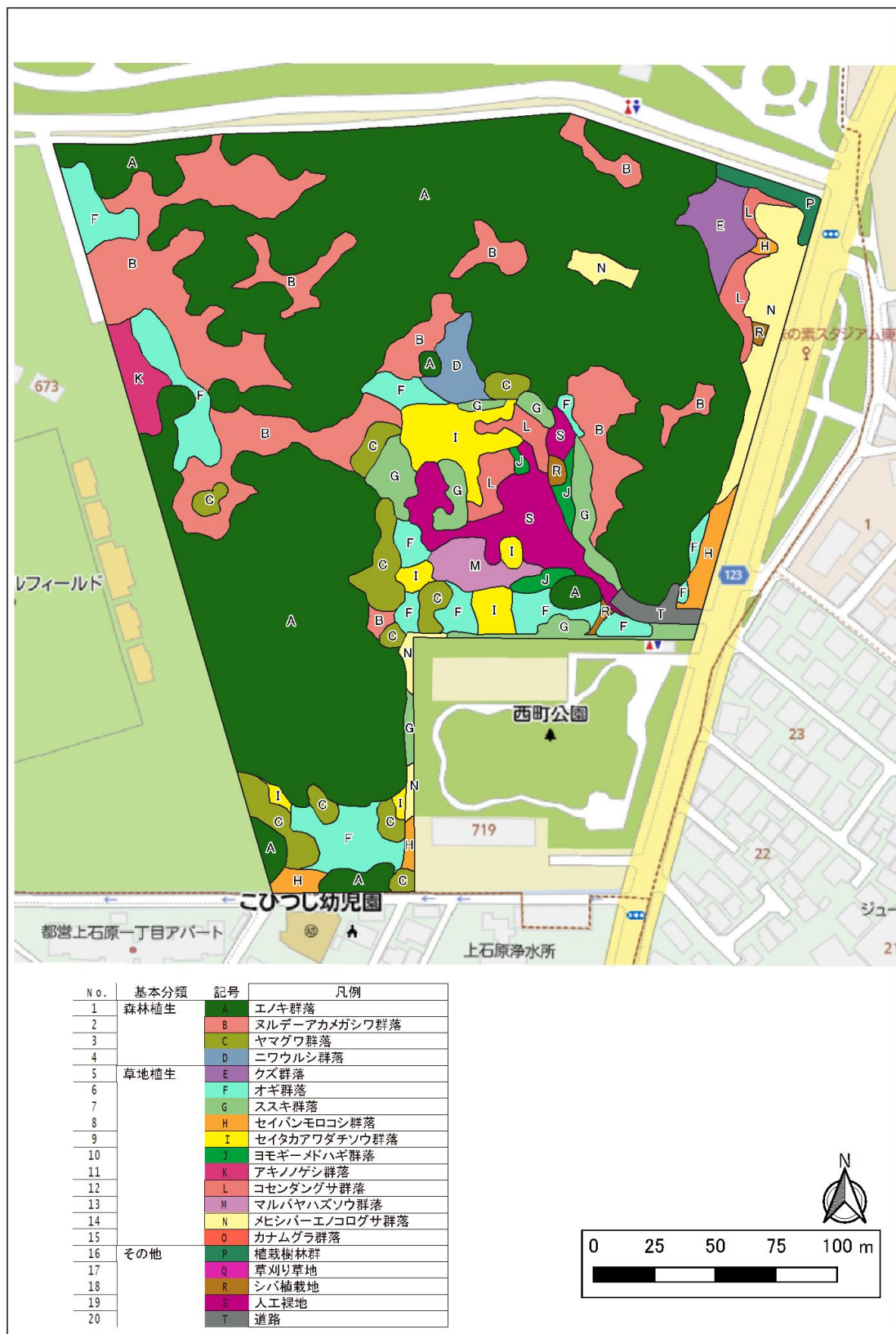


図 8 (1) 現存植生図 (夏季)

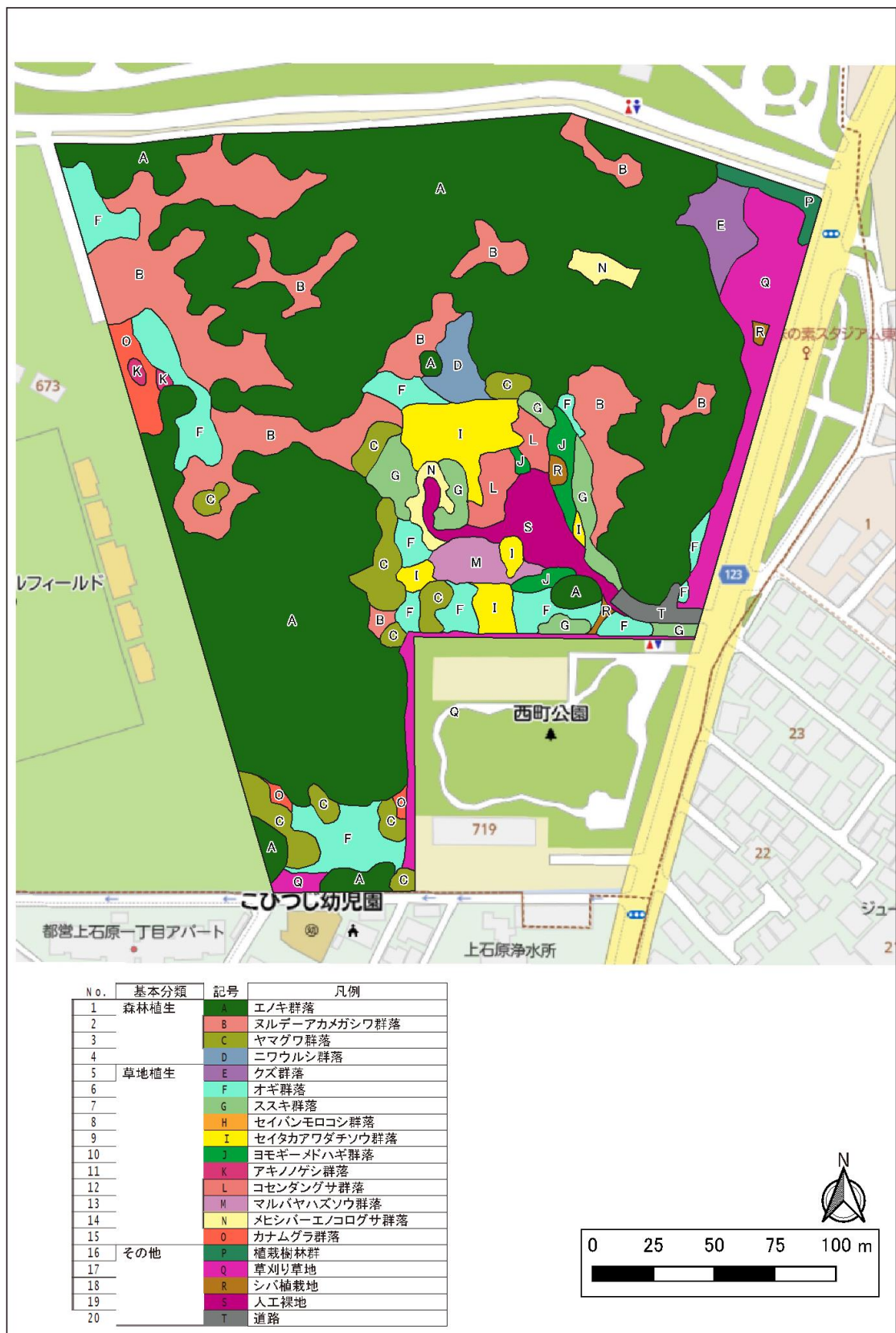


図 8 (2) 現存植生図 (秋季)

(7) 大径木

大径木調査は、以下の日程で実施した。

秋季：令和6年11月18日（月）～11月21日（木）

大径木樹種別確認本数を表12に示す。

調査の結果、12種259本の大径木を確認した。

最も本数が多かったのは、エノキの184本で、全大径木の71%を占めた。次いで、ヤマザクラが25本、ヤマグワが24本と多く、この3種で約90%を占めた。

表12 大径木樹種別確認本数

番号	樹種	本数
1	エノキ	184
2	ヤマザクラ	25
3	ヤマグワ	24
4	ムクノキ	7
5	ソメイヨシノ	5
6	センダン	3
7	ニワウルシ	3
8	ミズキ	2
9	ヌルデ	2
10	イヌザクラ	2
11	ネムノキ	1
12	オオシマザクラ	1
合 計		259

(8) 景觀

景観写真の撮影は、以下の日程で実施した（夏季と秋季は令和6年度業務で実施）。

夏季：令和6年7月29日（月）

秋季：令和6年10月22日（火）

春季：令和7年5月21日（水）

景観写真の撮影に当たっては、事業実施前後の変化を把握することに留意し、対象地内に計11地点の撮影地点を設定した（図9参照）。

景観写真を表13 (1) ～ (6) に示す。



図9 景観写真撮影地点

表 13 景観写真(1)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 1	 No. 1	 No. 1
 No. 2	 No. 2	 No. 2

表 13 景観写真(2)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 3	 No. 3	 No. 3
 No. 4	 No. 4	 No. 4

表 13 景観写真(3)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 5	 No. 5	 No. 5
 No. 6	 No. 6	 No. 6

表 13 景観写真(4)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 7	 No. 7	 No. 7
 No. 8	 No. 8	 No. 8

表 13 景観写真(5)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 9	 No. 9	 No. 9
 No. 10	 No. 10	 No. 10

表 13 景観写真(6)

夏 季 (令和 6 年 7 月 29 日)	秋 季 (令和 6 年 10 月 22 日)	春 季 (令和 7 年 5 月 21 日)
 No. 11	 No. 11	 No. 11

5. 環境保全措置の検討

(1) 保全対象種の選定

保全対象種の選定に当たり、確認した重要種について事業実施に伴い想定される影響と配慮すべき事項について整理した（表 14 参照）。

哺乳類と昆虫類・クモ類については、重要種は確認されなかったことから、個別の保全対策は行わず、一般的な環境保全対策に努めるものとする。

鳥類については、猛禽類を含む 10 種の重要種を確認したが、いずれも移動能力が高く、多くの種が調布市内において一般的に見られる種であり個体数が多いこと、また、生息環境も隣接地域に多く見られ、現時点でこれらの周辺環境に大きな変化が認められないこと、さらに、猛禽類についても営巣・繁殖は確認されず、確認個体はいずれも上空飛翔あるいは休息であったことから、事業実施がこれらに与える影響はほとんどないものと推察される。

一方、爬虫類については、ニホンカナヘビ 1 種を確認したが、本種は移動能力が小さいため、生息地である草地や林縁部の改変による影響を受けることが推察される。したがって、本種の生息環境の確保が必要であると考えられる。

植物については、重要種としてマツバラン等 4 種を確認した。植物は移動能力がないため、事業実施による環境の改変の影響を受けると考えられることから、保全対策としてこれらの生育環境を確保する必要がある。

表 14 (1) 重要種について事業実施に伴い想定される影響と配慮すべき事項（動物）

項目	No.	和名	選定基準	事業実施により 想定される影響	配慮すべき事項
陸上 動物	哺乳類	—	該当なし	—	—
	鳥類	1	ヒメアマツバメ	都:NT	特になし
		2	コチドリ	都:VU	工事中の営巣
		3	サシバ	環境省:VU、都:CR	工事中の営巣防止対策
		4	ツミ	都:NT	特になし
		5	オオタカ	環境省:NT、都:VU	特になし
		6	モズ	都:NT	特になし
		7	オナガ	都:NT	特になし
		8	ベニマシコ	都:NT	特になし
		9	ホオジロ	都:NT	特になし
		10	カシラダカ	都:VU	特になし
	爬虫類	11	ニホンカナヘビ	都:VU	生息地の改変
	昆虫類・クモ類	—	該当なし	—	生息環境の確保

表 14 (2) 重要種について事業実施に伴い想定される影響と配慮すべき事項（植物）

項目	No.	和名	選定基準	事業実施により 想定される影響	配慮すべき事項
陸上 植物	1	マツバラン	国:NT、都:DD	生育地(着生樹木)が改変	移植対策
	2	ヤブサンザシ	都:EX	生育地が改変	移植対策
	3	ヤナギイノコヅチ	都:EN	生育地が改変	移植対策
	4	ノニガナ	都:NT	生育地が改変	移植対策

(2) 保全対象種毎の保全対策検討

選定した保全対象種毎に保全対策を検討した（表 15 参照）。

表 15 保全対象種別保全対策

番号	保全対象種	具体的な保全対策
1	コチドリ	1. 営巣環境と成り得る裸地へのブルーシート展開等による営巣防止対策の実施。
2	ニホンカナヘビ	1. 生息環境である草地及び林縁環境の保全。 2. 生息環境である草地及び林縁環境の新規整備。
3	マツバラン	1. 生育環境である樹木の保全。 2. 移植。
4	ヤブサンザシ	1. 生育環境の保全。 2. 移植。
5	ヤナギイノコヅチ	1. 生育環境の保全。 2. 移植。
6	ノニガナ	1. 生育環境の保全。 2. 移植。

(3) 一般種を含めた基本的な保全対策検討

保全対象種以外の一般種を含めた環境保全対策を検討した（表 16 参照）。

表 16 一般種を含めた環境保全対策

番号	保全対象	具体的な保全対策
1	動物全般	1. 生息環境である草地及び樹林環境の保全・整備。 2. 隠れ家となるような、エコスタック等の整備。 3. 蜜源となる花等、餌となる植物の確保。 4. 水飲み場等として活用できる水場の整備。 5. 工事実施に当たり、低騒音・低振動機器の使用推進。 6. 夜行性動物に配慮した、夜間工事の抑制。
2	植物全般	1. 緑地整備に当たっての表土移植と埋土種子の活用。

調布基地跡地留保地自然環境調査報告書（概要版）

登録番号（刊行物番号）2025-159

令和7年12月発行

発行：調布市

編集：行政経営部企画経営課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

電話番号：042-481-7368・7369

ファクス番号：042-485-0741